



# 経験したからわかる 必要な支援

## 特集テーマ

### 災害と支援のかたち

東日本大震災という  
千年に二度の災厄を経験した被災地では、  
インフラ整備も心のケアも、  
そのニーズは時間の経過に即して刻々と変わってきました。  
誰がどんな支援を必要としているのか、  
敏感にキャッチしながら歩んできた14年半。  
その人だからこそ、その地域だからこそ生まれた  
支援のかたちを紹介します。



今回ご紹介するのは石巻市の2団体。一般社団法人日本カーシェアリング協会代表理事の吉澤武彦さんと、一般社団法人こころスマイルプロジェクト代表理事の志村知穂さんです。吉澤さんは、自動車の共同利用により被災コミュニティ全体を支援。志村さんは、徹底して子どもの心の問題と向き合い、グリーフケアなどに取り組んできました。

お二人の共通点は、共に東日本大震災を機に県外から石巻に移住したということのほか、吉澤さんは他の災害被災地での多彩なボランティア活動を通して、また志村さんはビジネスの世界を通して、確かな経験と人的ネットワークを備えていること。そんな財産をエンジンに、この未曾有の災害だからこそ浮かび上がるニーズを的確に受け止め、独自の支援のしくみを築き上げています。もちろん、それらの手法はただ被災地向けのものではありません。普遍的な社会課題の解決にもフィットする、より広範な地域、ケースへと応用できる取り組みでもあるのです。

# 世界初 寄付車を活かした「支え合いのしくみ」

## 車の共有で困りごとを解消

東日本大震災によって、宮城県石巻市で流失や水没により使えなくなった車は約6万台。大切な生活必需品の喪失は移動の自由と暮らしの復旧をさまたげました。車がなくて困っている人たちに共同利用（シェア）してもらおうと、仮設住宅に1台の車を届けたのが一般社団法人日本カーシェアリング協会のスタートです。ここから高齢者の外出支援や住民同士の楽しみに寄付車を活用する事業「コミュニティ・カーシェアリング」が生まれ、被災地だけでなく山間過疎地などにも導入・運用をサポート。サークル活動的な地域づくりを目的とする点で、都市部における営利目的のカーシェアリングとは異なります。

代表理事を務める吉澤武彦さんは兵庫県出身。阪神・淡路大震災におけるボランティア団体「神戸元氣村」の代表を務めた故・山田和尚氏（通称・バウさん）と出会い、さまざまなプロジェクトを動かしてきました。

「寄付車を社会貢献につなげるカーシェアリング事業もバウさんの提案です。『避難所にいる方たちが仮設住宅に移ったら、自治会長にカーシェアリングを提案したらどうや所有する文化から共有する文化へ、や』と。カーシェアリングなんて初めて聞くし、そもそも当時の私は運転免許も持っていない。ただ、自分ができることを精一杯やろうと、4月上旬から大阪や神戸の一部上場企業をかたづけばから訪問して車の寄付を依頼しました」。

利用者自らが使いやすいしくみを考案

2011年7月末に第1号寄付車を届けたのは、各地で被災した人が暮らす万石浦仮設団地。そこでは見ず知らず同士が一からコミュニティを構築しなければならぬ状態にありました。

「新しい支え合いのしくみを作るため、私は車のお届け1か月前に石巻入りして、皆さんが何に不便を感じ、誰が車の活用を手伝ってくれるか調査を行いました。そうして生まれた事業がコミュニティ・カーシェアリングです。ここにサービスを与える側・受ける側という固定した関係性はありません。住民同士でじっくり話し合い、地域の方だけで運用できるしくみを作ることとで、円滑なコミュニティが

一般社団法人日本カーシェアリング協会の事務所前にて。事務所は福島県で使われていた木造の仮設住宅を移築・再利用しています。



寄付で集めた車を地域コミュニティで利用するコミュニティ・カーシェアリング。官学民の連携により石巻市内で10地域、市外・全国で17地域の合計27地域で実践されています。具体的な利用ルールや役割分担は住民が決定。

## 多拠点展開で被災地を支援

「モビリティ・レジリエンス」部門は2015年の関東・東北豪雨や2016年の熊本地震、2018年の西日本豪雨など、近年頻度を増す自然災害に対応し、そのつど蓄積したノウハウや教訓を生かしてきました。2019年の佐賀豪雨をきっかけにして迅速な支援のため、初めて現地に支部を設置。翌年の球磨川氾濫では支部からスピーディに車を届けることができました。

「2024年の能登半島地震の支援は多拠点で展開しました。被害は半島全域に及ぶのに幹線道路の寸断は想像以上に、困っている人への支援が届きにくいからです。地元団体の協力も得て、被災された方が車を借りやすい環境を整えていきました。各拠点では、地元団体に研修を受けてもらった上で現地での対応業務を委託しています。一番多い時で石川県内に9つ拠点を設置しました」と吉澤さん。

「モビリティ・レジリエンス」部門は2015年の関東・東北豪雨や2016年の熊本地震、2018年の西日本豪雨など、近年頻度を増す自然災害に対応し、そのつど蓄積したノウハウや教訓を生かしてきました。2019年の佐賀豪雨をきっかけにして迅速な支援のため、初めて現地に支部を設置。翌年の球磨川氾濫では支部からスピーディに車を届けることができました。

「石巻のみなさんが、日本カーシェアリング協会のキャラクターの入った車を見かけると誇らしくなる、と言ってくれるのがまた嬉しいです」。

## 唯一無二の寄付文化を車を活用した

寄付で集めた車を活用して、困っている人を助ける——。これは寄付文化の伝統を持つ欧米諸国にもない唯一無二の活動です。

生活困窮者を助けることを意味します。私たちのような、車を共同所有して生活の質を向上させる発想は、未曾有の経験をした地域だからこそ生まれたといえるでしょうね。東日本大震災規模の災害だと4000〜50000台での支援体制が必要だと考えていますが、毎年約1000万台の車が手放されていることを考えれば、十分実現可能です。下取りや廃車にする以外に、寄付するという道を根付かせたいです。

取り扱い車両台数は約650台。寄付車には必ず日本カーシェアリング協会の大きなキャラクターが。

## 設立までの出来事

- 2011 京都府の企業からの寄付車第1号を万石浦仮設団地へ
- 2012 石巻市の「カーシェアリング・コミュニティサポートセンター」運営受託
- 2014 大規模災害での車の貸し出し支援を開始 (写真は秩父の大雪時)
- 2015 復興公営住宅でコミュニティ・カーシェアリングを開始
- 2020 佐賀県武雄市に九州支部(現・佐賀支部)設置
- 2024 能登半島地震では多拠点で迅速に支援



# machico防災部が ボランティアのプロから 話を聞いてみた!

## 災害ボランティアとは?

災害ボランティアとは、地震や水害、火山噴火など大規模な自然災害が発生した際、被災地のために自発的に行う支援活動のことです。その活動の目的は、「被災地が元気になるお手伝いをすること」。完璧な支援でなくとも、寄り添いたいという想いが、被災地の元気を支える力になります。

## 災害ボランティアって どんな活動をするの?

災害ボランティアは、被災地のニーズに合わせて適切で柔軟な活動を行うことが求められます。災害の種類や被災状況、発災後の時間経過などによってニーズも変わってきますが、力仕事から被災者への寄り添い、生活支援まで活動内容はさまざまです。



©福地波宇郎

### 災害ボランティア活動の種類

- がれきの撤去・分別
- 泥だし
- 室内清掃
- 引っ越しの手伝い
- 物資・衣類の仕分け
- 炊き出し
- 災害ボランティアセンター運営の手伝い
- 子どもと遊ぶ
- ペットの世話
- 被災者の言葉に耳を傾ける傾聴活動
- イベントやサロン活動の支援

力仕事以外にも  
できる活動は  
たくさん!



©福地波宇郎

## 現地に赴く以外にも 支援の方法はある?

「現地に行かない＝支援できない」ではありません。お金や物品の支援をはじめ、自分にできる形で寄り添う気持ちを届けることが、立派な復興支援になります。

### 災害ボランティア以外に できる被災地支援

- 寄付・募金
- 被災地産品の購入
- 被災地観光
- クラウドファンディング
- 手紙やメッセージで応援の気持ちを伝える

大切なのは  
被災地を  
応援する気持ち!

ボランティアは力仕事  
というイメージが変わりました。  
また、ボランティアを  
する側、受け入れる側、  
両者の寄り添いと協力が  
大切なんです!

## 支援を受け入れる側の 体制も大事!

もし災害ボランティアの支援を受ける側になった際には、「誰が」「どこで」「いつまでに」「どのような」支援を必要としているのかが大事です。そのためにも、現地に詳しい地域住民が率先して情報を収集しましょう。また、地域のマップを作ったり、どんな支援が必要となるかを想定しておいたり、日頃から地域の情報を整理しておきましょう。



# machico防災部といっしょ

今回のテーマ

被災地を応援したい。  
けど、なにから始めたらいいの?



machico会員  
(40代女性)



体験してみた人 /  
machico防災部員  
てん

ボランティアという言葉は、ラテン語の「volo(自ら～する)」が語源。何より大切なのは、被災地のために役に立ちたいという自発的な気持ちです。今回は、栗駒山麓ジオパーク推進協議会の職員で、豊富な災害ボランティア経験を持つ手代千賀さんに、ボランティアの始め方や心がまえ、必要な準備などについて教わりました。



教えてくれた人 /  
栗駒山麓ジオパーク推進協議会  
手代 千賀さん

machico編集部(以下M)：「栗駒山麓ジオパーク」とはどんな場所なのですか？  
手代さん(以下手)：栗原市を中心に広がる「栗駒山麓ジオパーク」は、ジオ(地球)に親しみ、学びや地域づくりに生かす場です。特徴は、2008年の岩手・宮城内陸地震で起きた日本最大級の「荒砥沢地すべり」をはじめ、自然災害の爪痕をそのまま残していること。自然と共生するジオパークとして、旧小学校校舎を活用したビクターセンターを活動拠点に、情報発信や体験活動を行っています。  
M：ジオパークとしての災害ボランティア活動について教えてください。  
手：2024年7月に山形県で発生した豪雨災害では、市民ボランティアを募り、計3回、現地で土砂撤去作業のお手伝いをしました。災害ボランティア活動はもともと私個人が10年前から行っているのですが、2年前にこの職員となったことで、施設全体として取り組むようになりました。ジオパークは地域を元気にすることも活動目的の一

つ。ですから、地域の人や自然と向き合いながら復興の現場を支えることも、私たちの使命だと考えています。  
M：現地でボランティアをするには、どんな方法がありますか？  
手：主に、現地の災害ボランティアセンターに登録して参加する方法と、ボランティアを募っている団体やNPOの活動に参加する方法があります。「まずは1日だけ参加してみたい」という人には前者「中長期的に関わってお手伝いしたい」という人には後者がおすすです。  
M：体力に自信がない私でもできる支援はありますか？  
手：炊き出しや物資の仕分け、現地の方の話し相手になるなど、体力をそれほど必要としない活動もあります。また、募金や寄付など、現地に行かずともできる支援もたくさんあります。被災地の力になりたいという気持ちがあるのであれば、どんな形であれ、ぜひ一歩を踏み出してみてほしいですね。

### WHAT'S

## machico防災部とは

仙台・宮城の人とまちを元気にする地域コミュニティサイト「せんだいタウン情報machico」の編集部員が、防災・減災に役立つスキルを体験して発信する「部活動」です。

machicoから  
アーカイブが  
見られます!



# 現地ボランティアに参加する 準備をしてみよう

服装や持ち物は、災害の種類や規模、活動内容、活動を行う時期によっても異なります。建物が倒壊して思いがけないものが道に落ちていたり、日差しを遮るものがなかったり、停電で想像以上に暗かったりなど、特殊な状況下に置かれていることも想定し、状況に合わせて準備しましょう。

## タオル

冬場は防寒、夏場は汗拭き用に。ケガをした際の応急処置にも使えます。

## 手袋

軍手やゴム手袋、革手袋など作業に合わせて。

## 長靴・運動靴

状況に合わせた靴を選びましょう。保護力の高い安全靴なら万全です。

## 踏み抜き防止用 インソール

どんな靴でも、ケガ防止のための踏み抜き防止用のインソールの装着は必須!

## マスク

防塵対策や感染症対策のため。



## 帽子orヘルメット

頭部の保護のため。

## 長袖・長ズボン

ケガや日焼け防止のため。夏場は半袖+アームカバーでもOK。

## ウェストポーチ orサコッシュ

貴重品やスマホ、ウェットティッシュなどをひとまとめに。

## ゴーグルorサングラス

防塵対策や紫外線対策のため。



## 持ち物を チェックしてみよう



- 着替え・防寒具
- レインウェアorヤッケ
- 食料や水(必要に応じて箸や紙皿なども)
- ウェットティッシュ
- 流せるティッシュペーパーorトイレットペーパー
- 絆創膏や消毒液などの救急用品
- ビニール袋orジッパー付き保存袋
- ゴミ袋
- ライト
- レジャーシート
- チョコレートや飴(非常食、熱中症予防)
- スマホ、ポータブル充電器
- 貴重品類(現金、運転免許証、健康保険証、ボランティア活動保険加入証など)
- リュックサック

# 現地ボランティアに参加するために必要な 心がまえ & 段取り

災害が発生したら、一刻も早く被災地に駆け付けたいと思うもの。しかし、現地の負担をできるだけ減らすためにも、災害ボランティアとしての心得を身につけ、必要な段取りを踏み、事前準備を整えてから出発することが大切です。

## 心がまえ

### 自分のことは自分でやる

ボランティアの原則は、自己完結・自己責任。現地で必要となる物は自分で用意することはもちろん、貴重品の管理も自己責任で行いましょう。自分が出したゴミは自分で持ち帰ることも忘れずに。また、体調管理も大事です。事故やケガ防止の対策を取り、自分の体調と相談しながら無理せず活動するようにしましょう。

### 被災者の立場に立った行動をする

基本的なマナーを守ることは大前提。そのうえで大切なのは、「被災者への心配り」です。「～してあげる」といった押しつけがましいものではなく、被災者の気持ちに寄り添い、被災者が何を求めているかをよく考えて活動するようにしましょう。

### 集団行動のルールを守る

災害ボランティアセンターなどを通じた場合は、グループで活動することになります。グループの方針に従い、メンバーの考えを尊重し合い、チームワークを大切にしながら活動するようにしましょう。自分自身の勝手な判断で行動するのはNGです。



## 段取り

### 正確な情報を収集する

災害ボランティアの募集状況について、被災地の市町村や社会福祉協議会、そこで立ち上がった災害ボランティアセンターなどのSNSやウェブサイト、最新の情報を必ず入手するようにしましょう。活動内容や募集条件、申し込み方法などもチェックを。

### ボランティア活動の登録を行う

災害ボランティアを行うには、被災地の社会福祉協議会が中心となって開設する災害ボランティアセンターに申し込むのが一般的な流れです。事前登録が必要な場合もあるので、各センターの募集状況や条件を事前に必ず確認しましょう。

### ボランティア活動保険に加入する

活動を行うにあたっては、ボランティア活動保険に加入することが必須です。出発前日までに最寄りの社会福祉協議会で加入しておきましょう。自身のケガや体調不良だけでなく、家具などを壊してしまったり、他人にけがをさせてしまった時にも補償の対象になります。

### 交通手段や宿泊先を確保し、持ち物を準備する

現地に負担をかけないことが災害ボランティア活動の基本。交通手段や宿泊場所を確保し、食料や水をはじめ持ち物の準備をしっかり整えてから出発しましょう。

ボランティア活動保険加入者カード	
加入団体名	様
加入者名	様
加入プラン: (A・B・C・天災・家族)プラン ※ご加入プランに○印をつけて下さい。	
補償期間	年 月 日～ 年 月 31日まで
社会福祉法人 宮城県社会福祉協議会	
【受付窓口】宮城県( )社会福祉協議会	



2016年の熊本地震、2019年の東日本台風、2024年の能登半島地震などでも、被災地の復旧・復興のために大きな役割を果たした災害ボランティア。「自分も力になりたい」と思った時に、必要となることを紹介します。  
監修 栗駒山麓ジオパーク推進協議会 手代千賀さん

施設 1 津波被害を知る 証言を聞く  
避難を考える 復興を感じる

# 語り部紹介 @仙台市 東北福祉大学

語り部

あべかすみ  
阿部花澄さん  
大学2年生



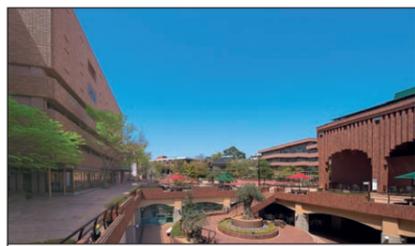
「語り部活動は、自分の気持ちを整理するきっかけにもなりました」と阿部さん。

「中学生の頃までは震災の話  
をあまりしたくなかったの  
ですが、いま自分の気持ちに  
向き合っているのは、支えて  
くれたボランティアの方々  
のおかげ。今度は私が誰かの  
役に立ちたいと思いました」と  
阿部さん。大学にはボラン  
ティアサークルが多数あり  
ますが、授業が忙しく参加  
に踏み切れなかったそう。  
「語り部の存在を知って、  
自分の経験を生

「今」の大切さを  
子どもたちに伝えたい  
ボランティア活動が盛んな  
東北福祉大学では、宮城県  
教育旅行ガイドブックの防  
災・震災学習プログラムに  
参画しています。学生が  
主体となり、宮城を訪れた  
小中学生に防災カルタや  
エコノミークラス症候群予  
防体操などを交えながら  
楽しく防災・減災を伝え  
る取り組みです。その学  
習メニューの一つに、学  
生が東日本大震災の体験  
を伝える「語り部」があ  
ります。健康科学部2年  
の阿部花澄さんは、語り  
部ボランティアの一人。震  
災の経験から得た思いを、  
自分の言葉で児童生徒に  
話します。「中学生の頃  
までは震災の話をおま  
りしたくなかったの  
ですが、いま自分の気  
持ちに向き合っている  
のは、支えてくれたボ  
ランティアの方々のお  
かげ。今度は私が誰か  
の役に立ちたいと思  
いました」と阿部さん。  
大学にはボランティア  
サークルが多数ありま  
すが、授業が忙しく参  
加に踏み切れなかつ  
たそう。「語り部の存  
在を知って、自分の経  
験を生



プレゼン資料は、東松島市震災復興伝承館に行くなどして  
情報収集しながら自らが作成。



DATA 東北福祉大学 ●宮城県仙台市青葉区国見  
1-8-1 ☎022-233-3111 🌐https://www.tfu.ac.jp/

かしたいと思ったんです」。  
阿部さんは東松島市出身。  
東日本大震災発生時は保育園  
でお昼寝中でした。近くの小  
学校に避難した後に緊迫した  
状況で山に逃げたこと、校庭  
ががれきだらけになった光景  
は、今も鮮明に覚えています。  
津波で母親を亡くす悲しい  
経験もしました。当時の出  
来事やそのときの気持ち、東  
松島市のことを資料にまとめ  
た際は、壮絶な経験をリアル  
に伝えるより、未来につなが  
る内容を意識したと言いま  
す。「3・11や東松島市を知  
らない中学生にどう伝えるか  
を考え、写真を多用し説明し  
ました。生徒が真剣に話を聞  
いてくれたことにやりがい  
を感じ、後日「今の生活を大  
切にしよ」と思います」とい  
う感想を見て、言いたかった  
ことが伝わったと実感できま  
した。年齢が近い私に、中学  
生も質問しやすかったと思  
います。看護師を目指して勉  
強や実習に励む阿部さんは、「  
人を助ける存在になりたい」と  
これからも語り部活動に向  
き合います。



靴下で作られた東松島市のマスコット人形「おのくん」と一  
緒に各テーブルへ。おのくんは中学生にも大人気だった。



vol.14

# 株式会社KOKUAの「LIFE GIFT」

## 防災を「ギフト」に 備えの提案

防災を「ギフト」に備えの提案  
ギフトを贈ることで、大切な人の安全を願う。LIFE GIFTは「あなたの無事が、いちばん大事。」をメッセージに掲げたカタログギフトです。ラインナップは、日々の暮らしに調和するデザイン性の高い防災グッズを揃えた



2019年に仙台で開催された「世界防災フォーラム」で事業を発表。写真中央が代表取締役CEOの泉勇作さん。

「LIFE GIFT(税込14300円)」と、ローリングストックとしても頼りになるおいしい食品を集めた「LIFE GIFT food(税込4290円)」の2種。結婚や誕生日、出産などのお祝いごとから、普段の返礼、遠く離れた家族とのコミュニケーションまで様々なシーンで利用されています。  
発案したのは、株式会社KOKUA(コクア)。人々が自然と防災に取り組む社会づくりを目指し起業した会社です。代表取締役のひとりである泉勇作さんにLIFE GIFTを企画した経緯を尋ねると「東日本大震災でのボランティア活動や、学生時代から続けている被災地での支援活動の中で感じた課題がきっかけでした」とのこと。その課題とは、防災を広く伝えることの難しさ。「防災への関心度

合いに関わらず、より多くの方に防災を意識し浸透させる必要があると感じていました」。泉さんは、日ごろからプレゼントをする際に防災グッズを選ぶことが多く、贈った相手から喜ばれていた経験もヒントに、「大切な人の命と安全な毎日を願う贈り物を集めたカタログ」というアイデアが生まれました。  
きっかけづくりと意識向上の両面を推進  
LIFE GIFTは選ぶアイテムだけでなく、パッケージにもデザイン性と体験性を備えています。シックなモノトーン調のパッケージに収められているのは、防災アイテムを丁寧に紹介するカードや冊子。そこに記されたアイテムの紹介文をじっくりと読みながら、選ぶ楽しさと特別な一品が届くうれしさを体験で



2021年度グッドデザイン賞を受賞。結婚祝いや出産祝いに利用されている。詳しくはこちら。https://lifegift.jp/

きます。「防災グッズでありながら、もらってうれしいアイテムであることを大切にしました」と泉さん。カタログを開き、アイテムを選ぶ。そして手元に届くまでの時間すべてに、ギフトにふさわしい特別感が込められています。LIFE GIFTを受取った人からは、「防災を意識するようになった」「家族で備蓄について話すきっかけになった」という声が寄せられたといいます。周年行事などでLIFE GIFTを贈る企業も増えていることから、泉さんは「このギフトが浸透すれば、世の中全体の防災力が上がっていくのではないかと」と防災意識の種が育っていくことに期待を寄せています。  
また、泉さんはさらに一歩進んだ防災も思い描きます。「現在は備蓄のDX化にも取り組んでいます。行政や自治体が公表しているハザードマップや地盤情報などのデータから、そこに住む人に起こりうる災害リスクを分析し、一人ひとりに適した防災グッズを診断するサービスも展開しています。防災のきっかけづくりから防災リテラシーの向上まで、消費者だけでなく企業や組織にも提案していきたいです」

施設③ キーワード▶ □津波被害を知る □証言を聞く □復興を感じる

# 東松島市 震災復興伝承館



津波の威力で折れ曲がった駅名標。当時のものがそのまま残されている。



東松島市に送られた千羽鶴をアートとして展示。チラシなどで折られた一つ一つに当時の記憶がよみがえる。



DATA ◎宮城県東松島市野蒜字北余景56-36 ☎0225-86-2985 🕒9:00～17:00 ④第3水曜日 ⑤無料 🌐https://www.city.higashimatsushima.miyagi.jp/shisei/shinsai/fukko/fukkokenen/fukkodensyokan.html



震災がれきの処理方法「東松島方式」も紹介。徹底した分別とリサイクルによる災害廃棄物処理方法が注目を集めた。



震災後、泥の中から見つかった駅の切符券売機。頑丈な機械が大きなダメージを受けている。

**津波の威力を物語る J R 仙石線旧野蒜駅が伝承施設に**

野蒜地区は県内で甚大な被害を受けた地区の一つ。津波は高さ3・7メートルにまで達し、それまで地元住民が日常的に利用していたJR仙石線野蒜駅を襲いました。ここでは津波の威力で曲がった線路や、折れ曲がった駅名標の現物を見ることが出来ます。駅舎1階では復旧・復興の歩みをパネルで紹介。2階では映像も交えて震災以前の東松島の姿と被災の状況を解説しています。語り部活動も行われているので、ぜひ当時の様子を聞きながら周辺を歩いてみてください。

**問** この伝承館の裏手に小さな山があります。この山は、震災時に多くの地元住民の命を救いました。どのようなエピソードがあるか、館の方に聞いてみましょう。

**答**



発災時のニュースや番組から震災を振り返るコーナー。当時の緊迫した状況が伝わる映像や展示品は、見る人の心に防災意識を刻む。

施設② キーワード▶ □津波被害を知る □まちの歴史を知る □復興を感じる

# NHK仙台放送局 震災伝承施設

Googleには、復興途中の陸前高田の風景や震災遺構を案内する語り部の映像が映し出される。(13歳未満はタブレットなどで視聴可能)

## VR体験コーナー



**問** ニュースやテレビ番組、アニメ、VRなど、震災の記憶と防災の学びを伝える様々な映像から感じたことを書き出してみよう。

**答**



2階の天井まである高さ13mの柱には、県内4カ所で計測された浸水高を表示。見上げる高さに、津波の脅威を実感できる。



災害を正しく恐れることや避難の大切さをアニメーション映像やカード等で発信。親子で楽しく防災を学べる。



DATA ◎仙台市青葉区本町2-20-1 ☎022-211-1001 (NHK仙台放送局) 🕒10:00～19:00、土曜10:00～17:00 ④毎週日曜日、祝日、年末年始(イベント開催時は開館) ⑤無料(団体での見学は要予約) 🌐https://www.nhk.or.jp/sendai/info/articles/310/009/77/

# きてみてマップ

きてみてで紹介した施設のほか、  
特集・あしたのクリエイティブで紹介した場所も  
記載しています。



立ち寄りスポット

## 1 道の駅 東松島



青い空と海を望む高台に立つ、開放感あふれる道の駅。地元の新鮮な野菜や特産品が並び、ブルーインパルスのグッズ販売やVR体験ができるのもここだけ。東松島の魅力をまるごと楽しめるスポットです。

**DATA** ◎宮城県東松島市小松上二間堀112-5 ☎0225-25-6301 ⑨各ショップ・施設により異なるため下記WEBで要確認 ⑩年中無休 🌐<https://www.michinoeki-higamatsu.com/>

## 2 奥松島縄文村 歴史資料館



奥松島の国史跡「里浜貝塚」から出土した貴重な土器や石器、圧巻の貝層剥ぎ取り標本を展示し、縄文人の暮らしや文化を体感できる資料館です。火おこしや勾玉(まがたま)づくりなど、多彩な縄文体験も人気です。

**DATA** ◎宮城県東松島市宮戸字里81-18 ☎0225-88-3927 ⑨9:00~16:30 ⑩毎週水曜日・年末年始 🌐<http://www.satohama-jomon.jp/>

## 3 青葉山公園 仙臺緑彩館



2023年に開館した、自然・文化・歴史をつなぐ青葉山の新たな交流拠点。展示やカフェ、和室などが備わり、四季折々の景色を眺めながらゆったり過ごせます。観光の立ち寄りや、市民の憩いの場としても人気です。

**DATA** ◎宮城県仙台市青葉区川内追廻無番 ☎022-266-1651 ⑨3~11月は9:00~19:00、12~2月は9:00~17:00 ⑩3・6・9・12月の第1月曜日、年末年始(12/29~1/3) 🌐<https://parks-aobayama.jp/>



宮城の復興の「いま」を  
SNSでお伝えしています！  
皆さまからの投稿も  
お待ちしております！



LINE



Facebook



X (Twitter)



Instagram

Baton

発行元

宮城県震災復興本部(事務局:復興支援・伝承課)  
〒980-8570宮城県仙台市青葉区本町三丁目8番1号 TEL:022-211-2443

